

経営比較分析表（令和5年度決算）

愛知県小牧市 小牧市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員 民間企業出身
経営形態	診療床数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	-	対象	ド 透 I 未 訓 ガ	救 臨 が 災 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
149,715	62,510	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
520	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	520
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
447	-	447

グラフ凡例 ■ 当該病院値（当該値） — 類似病院平均値（平均値） 【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （医療の提供・ネットワーク化等含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

当院の役割は、尾張北部医療圏における中核的な役割を担う基幹病院として、救急医療や高度医療機能を用いた治療、がん診療を中心に高度急性期・急性期の医療を継続的に行う役割と、公的医療機関として、採算性の面から民間医療機関による提供が困難な救命救急や周産期などの医療を提供することである。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、令和5年度より新型コロナウイルス関連の補助金の多くが終了し、経常収益が大きく減少したため下降した。
②医療収益比率及び③修正医療収益比率は、④病床利用率が上昇したことや、昨年度より順次進めていた入院料加算等の算定増加により上昇し、高度な薬剤や診療材料を用いた治療の増加により⑤入院患者1人1日当たり収益と⑥外来患者1人1日当たり収益は増加した。医療収益の増加に伴って⑦職員給与費対医療収益比率は下降し、高額な薬剤や診療材料を用いた手術の増加と物価高騰の影響によって⑧材料費対医療収益比率は上昇した。

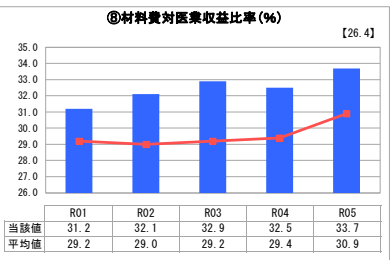
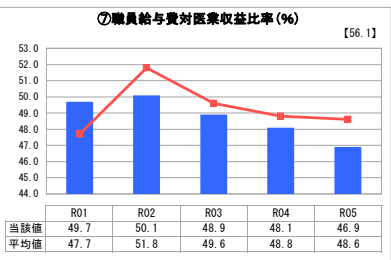
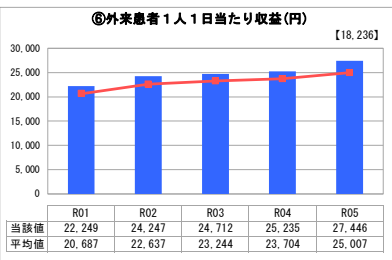
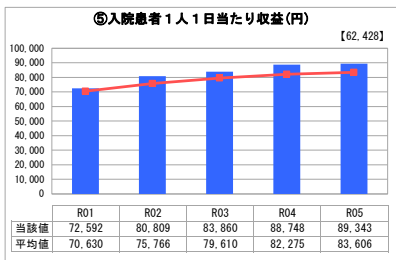
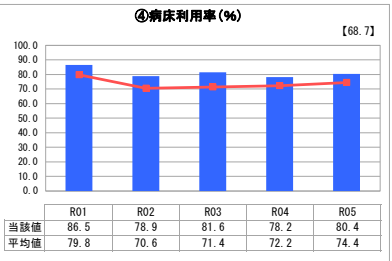
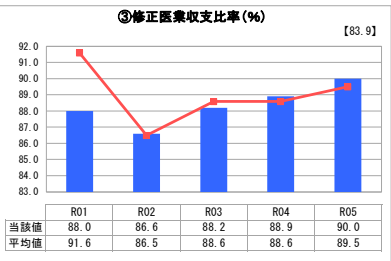
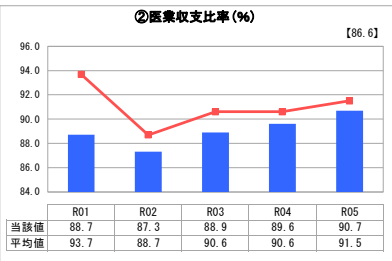
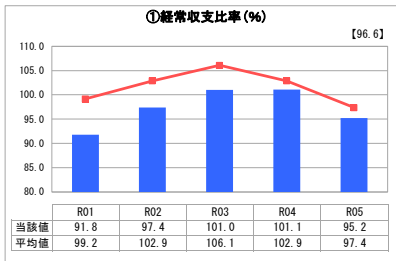
2. 老朽化の状況について

令和元年5月に新病院が開院となり、①有形固定資産減価償却率は平均値を下回っていることから老朽化の問題はない。旧病院から移設した医療機器が順次更新時期を迎えることから、②機械備品減価償却率が上昇しているため、機械の消耗状態と経営状況を踏まえながら更新を行うこととなる。
③1床当たり有形固定資産は、新病院開院時に管理棟や立体駐車場を新設したことや、PET、ダヴィンチ、ハイブリット手術室を新規導入したことによって償却対象資産が増加し、平均値を上回った。

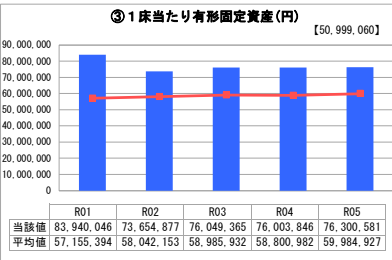
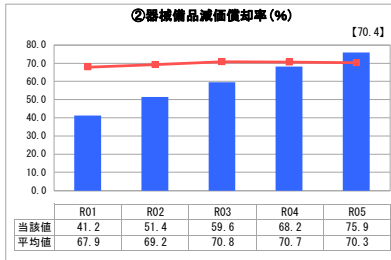
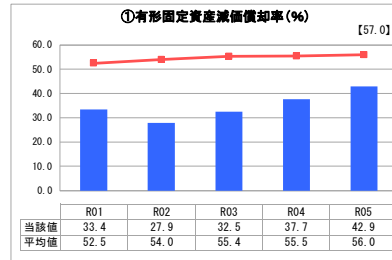
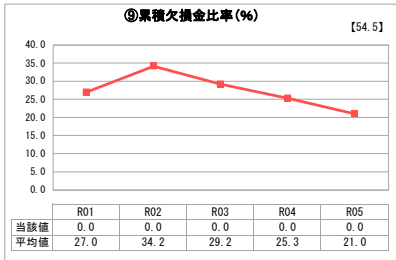
全体総括

近年は、医療収益は増加傾向を維持する一方で、材料費や委託料等の医療費用は医療収益以上の増加率を示しており、収益を圧迫する要因となっている。このため、令和6年度においては、まずは医療費用の見直しについて、経費削減のコンサルの導入なども検討しながら重点的に取り組むこととしている。
今後とも経営環境は厳しい状況が続くが、新病院に機能を最大限に発揮するとともに、地域のニーズを的確に捉えた質の高い医療を提供し、患者数の増加や医療単価の引き上げ及び経費の削減などの取り組みにより経営の効率化を図る。また、令和5年度に策定した経営強化プランを指針とし、尾張北部医療圏における基幹病院として現在有する医療機能を継続的に提供できるよう努める。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。